

ドライビング上達の

ヒント満載 特別号

レブスピード 5月号

2025年3月26日発売(奇数月26日発売) 特別価格 1810円

REV/SPEED

Vol.
388

5

2025
May

堤 優威 伊東黎明 奥本隼士 三井優介

ドライビング

最新上達法

絶対
速くなる
上手くなる

ベテランだって盗みたい 若手プロの速さの秘密

FLシビック最前線



青木孝行が筑波コース2000で試す

車高調サスキット実力検証&使いこなし術



特別付録DVD
副音声
木下みつひろ
マニアック
解説

おかげさまで
35
周年

REV/SPEED

2025 May
5
388

レブスピード 2025年5月号 2025年3月26日発売(奇数月26日発売) 発行所/株式会社三栄(販売・広告・編集)
〒161-1126 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー26F 発行人/鈴木賢志 編集人/塚本剛臣
販売 Tel 03-6773-5250 受注センター Tel 048-988-6011 Fax 048-988-7651



スタンダードフルバケットの人気No.1モデル
ジータIVをベースに
高級スウェード調生地&カラーライン採用の
シートトリムをフルカバードした上質なスポーティングモデル、
ジータIVレイムス。

ZETA IV REIMS

—ジータIVレイムス—

¥149,600(税込)

- FRP製シルバースhell(GFRP)
- 高級スウェード調生地(一部PVCレザー)
- 全3色(ブラック&ブラック/ブラック&レッド/ブラック&ブルー)
- 難燃生地 ●保安基準適合モデル
- 日本製 ●FIA認証ラベル無し
- 着座センサー搭載(座面部) ※車種によっては、対応できない場合があります。

●重量:約7.8kg(参考値)

抗菌(除菌・脱臭)対応の安心仕様 車検もOK!



写真のモデルは、
ZETA IV REIMS・FRP製シルバースhell・
ブラック&レッド(HA1BNF)です。



ZETA IV REIMS BLACK & RED

写真のモデルは、
ZETA IV REIMS・
FRP製シルバースhell・
ブラック&レッド
(HA1BNF)です。

BRIDE SUPER SEAT
BRIDE CO., LTD.

ブリッド株式会社 BRIDE®は、
ブリッド株式会社の登録商標です。

〒476-0015 愛知県東海市東海町1丁目11番1号 電話:(052)689-2611 ファクス:(052)689-2612
※掲載製品の仕様・デザイン・価格等の変更及び、販売終了を予告なく行う場合がありますので、予めご了承ください。



ZETA IV REIMS BLACK & BLUE

写真のモデルは、
ZETA IV REIMS・
FRP製シルバースhell・
ブラック&ブルー
(HA1CNF)です。



ZETA IV REIMS BLACK & BLACK

写真のモデルは、
ZETA IV REIMS・
FRP製シルバースhell・
ブラック&ブラック
(HA1ANF)です。

ブリッド&エディルの最新情報は、こちら!

<http://bride-jp.com>



雑誌 09645-5

SAN-EI CORPORATION PRINTED IN JAPAN TOPPAN クロレ株式会社



4910096450558

01645



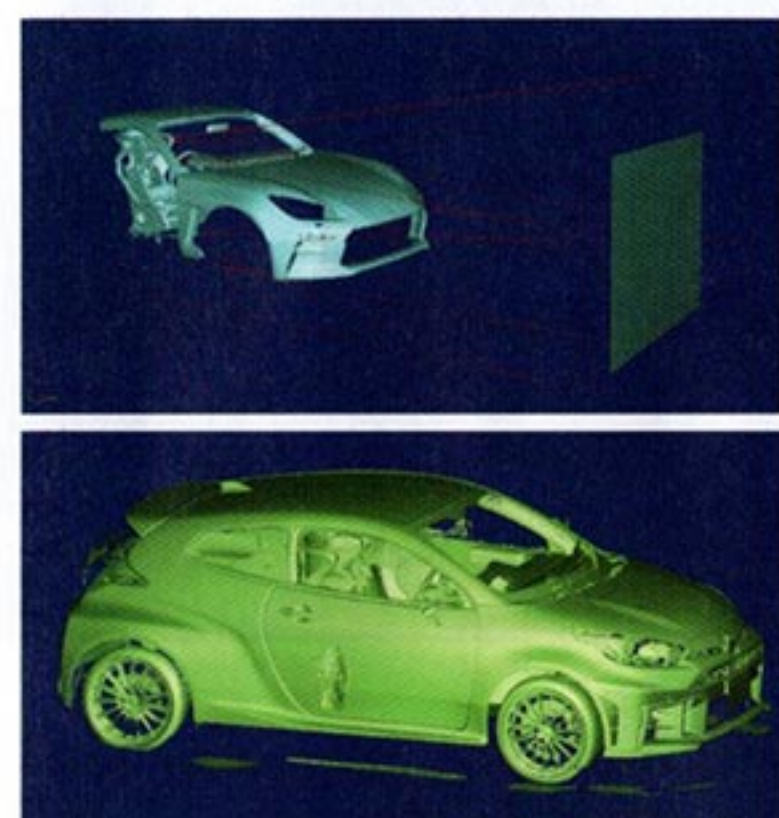
進化型 GR Yaris 装着例

シートレールは LF タイプの後期型用を使用。ドライビングポジションが 25mm 高い前期型には前期型用がラインアップされている。ハンドルセンターが得られ（メーカーオプションの『縦引きパーキングブレーキ』装着車用は 10mm ドア側にオフセット）、こちらもおおよそ身長 165cm 以上であれば、視界や操作に支障のないレベルの適度なローポジションと感じるだろう。



ZN8 GR86 装着例

シートレールは LF タイプを使用。取り付け位置はフロントが中段で、リアは最下段。ハンドルセンターが得られ、おおよそ身長 165cm 以上であれば、視界、ハンドル&シフト操作に支障のない範囲での適度なローポジションとなる。CS よりもさらに高い（腿部は +30mm）サイドサポートは包まれ感のさらなる向上を実感するはずだ。



平成28年11月1日以降の生産車に適用される規定をクリア

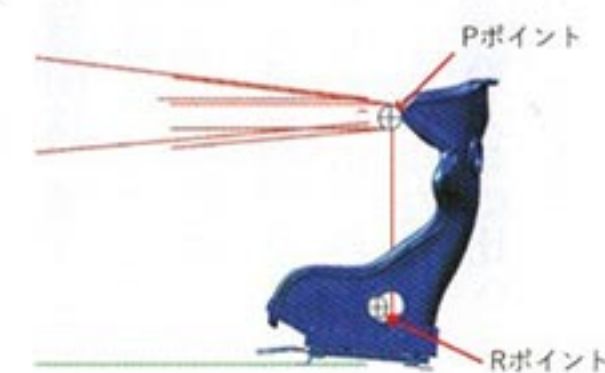
BRIDE の保安基準適合モデルは『シートバック後面衝撃試験』『ヘッドレストレイント前方衝撃試験』『ヘッドレストレイント静的試験』『座席及び座席取付装置試験』『座席ベルト取付装置試験』『難燃試験』からなる過酷な保安基準試験を通して。競技専用モデルだった RS も同じ試験に臨み、懸念されていた、こちらの規定（保安基準第 21 条関係の『視認等による審査』）も含めて、クリアできることが実証されたという次第。車両の前端から 2m 離れた位置に車幅 + 左 0.9m・右 0.7m、厚さ 0.3m の障害物を置き、左右の A ピラーの間から、その両端が視認できることが条件だが、RS のヘッドガードの先端はちょうどこめかみのあたりで、眼はこめかみより前にあるため、深く腰掛けた状態で、180° の視野角が保たれている。サイドミラーやルームミラーも容易に確認できるというわけだ。保安基準適合の RS は 5 月発売予定。コンペティションの世界を賑わす存在となるだろう。

シート単体での視界の確認

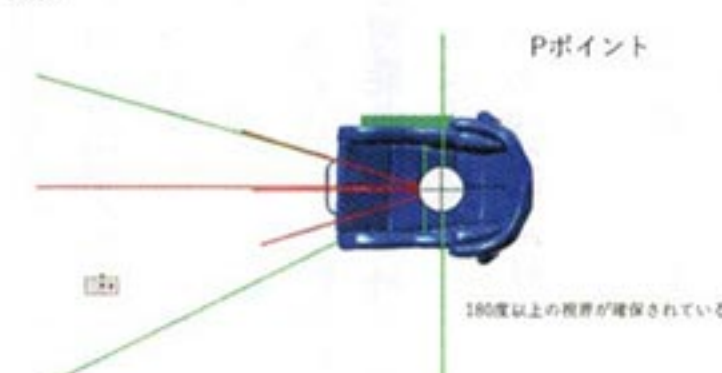
計測した R ポイントから V ポイントを算出データ上にプロット。前方 180 度以上の視界が確保されていることを確認



側面視



平面視



証できたわけだが、バックの際は、さすがに視界が狭いので、ブリッドとしてはバックモニター等の装着を推奨している。

シート自体の魅力も高めた。背面はハーフカバーにして、後席があるクルマも別売りのシートバックプロテクターなしで車検を通せるようにした。

ヘッドガードの外側も生地地で覆われるようになったため、そこに『BRIDE』の刺繍を刻んでいくが、それがまた映える。

腿から脇にかけてのキルト部分は、シートVのヘッド部分などに用いている伸縮性に優れた生地地で、包まれ感やシートチューニング効果の向上に寄与。

ヘッドガードの脱着式パッドは、パッド側にマジックテープを付けたため、外しても見た目、触感的にまったく違和感なしだ。

カラーはブラック、グラデーションシロコ、レッドをラインアップ。また、シヨルダ部分はスエード調生地に仕様を変えている。

発売は 5 月を予定。シエルは FRP とスーパースタミッドの 2 種類で、重量は従来とおり。いっさい重くなっているわけではない。保安基準の試験資料は必要に応じて購入者が請求できるシステムだ。

RS の保安基準適合化は「公道を走るシートで、より安全に走っていただきたい」という、競技者に対する同社の願いからである。

大型ヘッドガードを備える BRIDE XERO RSが保安基準適合に

ヘッドガード付きのフルバケットシート XERO シリーズは GR86/BRZ Cup や Yaris Cup などのナンバー付きワンメイクレースラリー／ダートトライアル／ジムカーナなどの競技において保安基準適合の CS が人気を集めている

同じ座面やバックレストの形状で、よりサイドサポートが高くヘッドガードが大きい RS は競技専用モデルということで活用が狭められていたが、新型は保安基準適合モデルに！さらなるホールド性、頭部の保護性能が得られるとあってモータースポーツにおける需要の高まりが予測される



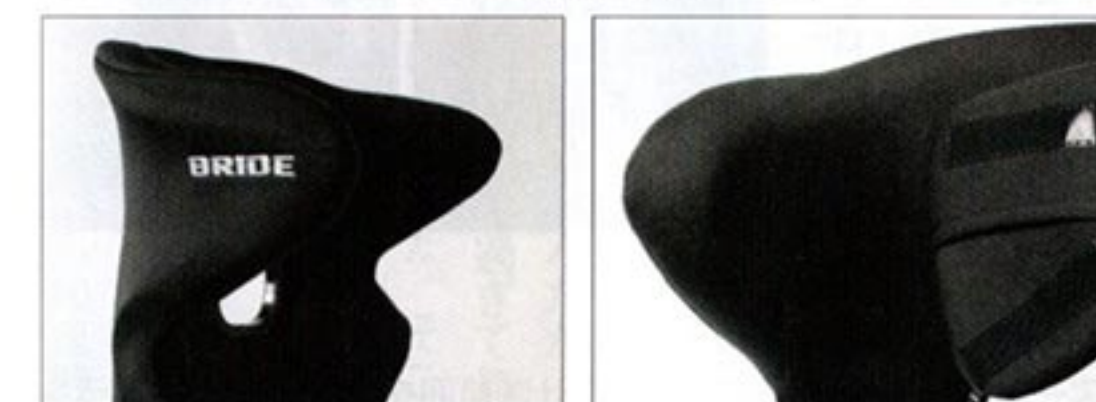
背面はハーフカバーとなり、後席がある車両も別売りのシートバックプロテクターを必要とせずに車検を通すことができる

新型 XERO RS

FIA 規格取得／保安基準適合
2025年5月発売予定
価格未定



ヘッドガード部分までハーフカバーで覆われるようになったため、側面には BRIDE の刺繍が刻まれるようになった。サイドウィンドウ越しに映える演出となる。ヘッドガードの脱着式パッドはマジックテープがパッド側に付くため、取り外した部分には何も残らず、違和感皆無



座面やバックレストの形状、着座位置、アイポイント、シート総幅などは XERO CS と同じだが、サイドサポートの高さとヘッドガードの大きさ（シート全高で 30mm 長く、ヘッドガード部分で 20mm ワイド）が異なり、その分、ホールド性が稼げて、頭部を守りやすいモデルとなった。

保安基準適合と併せて魅力をアップ

ゼロシリーズは RS/CS/V S/MS からなるヘッドガード付きフルバケットシート。そのうち、RS と MS は競技専用モデルとされてきたが、このたび、RS がリニューアルされ、保安基準適合モデルとなった。

現状、GR86/BRZ カップ、ヤリスカップ（前身の 86/BRZ レースやヴィッツレースも含めて）、など、ナンバー付き車両のワンメイクレースやラリー／ダートトライアル／ジムカーナなどでは、保安基準適合の CS が人気だが、RS は CS と同じ座面やシートバックの形状（腰上部が起きて、背中が後方に倒れて、肩甲骨から上が起き、首から上が後方に倒れる S 字デザインで、包まれる安心感の高さ、ラクな姿勢による疲れにくさ、HANS やヘルメットのクリアランスの広さ、ハンドルが近くなるメリットなどが好評）で、さらにサイドサポートの高さ（腿部は +30mm）やヘッドガードの大きさによる包まれ感や頭部の保護性能のアップが得られるとあって、スイフトスポーツなども含め、車室内空間に余裕がある車種では需要が高まるだろう。

保安基準第 21 条関係の『視認等による審査』をクリア、180 度の視野角が保たれていることが実